



## 岐阜市出身の世界的なアーティスト



### ひびの かつひこ 日比野 克彦さん

今回の直撃インタビューはフラッグアートの審査員として有名な日比野克彦さんです。平成16年10月10日、養老天命反転地で行われた「日比野スペシャルワークショップ」の様子を見せていただきました。

今回のワークショップは風船を何百個もつけた1本のひもを天命反転地の端から端へ渡し、水平線を創るという試みでした。おびたしい数の風船が風にたなびく様子を見ながら、多くのことを感じる事ができたワークショップでした。

### Q. 小学校の頃はどんな遊びをしていましたか？

A. 小学校1年生のとき、病気になり、入院していた時期もあって、外に出て遊ぶことができませんでした。そこで、本を読んだり、絵の本を見たりして過ごしていました。



### Q. 小学校の頃のことで、心に残っていることは？

A. 小学校2年生から3年生にかけて病気で入院していたとき、毎日、クラスメイトが4人ずつお見舞いに来てくれ、とてもうれしかったことを覚えています。冬にたこあげ大会があり、毎朝、たこあげの実験をしていました。ところがある日、そのたこが飛んで行ってしまい、グループの子4人で探しに行きました。ようやく見つかって帰ろうとしたらお昼になってしまっていました。クラスへ戻ると担任の先生が「たこが見つかってよかったな。」と喜んで下さいました。このことは印象に残っています。

### Q. 子どもの頃、好きだったことや夢は？

A. 小学校5年生からサッカーを始め、一生懸命やりました。小学校のとき、中学校の先輩と試合をしたこともあります。その頃の夢は、サッカー選手・漫画家でした。

### Q. アーティストになってよかったこと、つらかったことは？

A. 自分は表現するときの材料や手段を限定していないので、自由に表現することができます。その反面、何でも選ぶことができる代わりに責任をもって選ぶなくてはなりません。選択の自由はあるが、迷いの幅もあるということです。

### ぎふっ子へのメッセージは？

- ☆自分の校区の中で生活している小中学校の時期に、ふるさとの中で好きなところをたくさん見つけておいてほしい。地域の良いところをよく味わっておく。あたり前のように思っていたことの中で、後になってすてきなことのように思えることが、きっと出てくると思います。
- ☆自分のなりたいものは、自分で探したり、創り出したりすることが大切。今あるものから選ぶと思うなくてもよいから、ぜひ、自分で創り出してほしい。

